

明治大学 vs 中央大学

9月21日(日)
11:30K.O.
味フィ西

前節の試合の中で、ひときわ存在感を見せたのが明大だった。首位・専大との戦いだったが、前半は全体をコンパクトにして相手につけ入るスキを与えず、攻撃では6分と33分にゴール。前半を2-0で折り返す完璧な内容だった。後半、専大がシステムと選手のポジションを変更したことによりコンパクトさが保たなくなり、やや押し返される展開となって5分に失点もしたが、そこで慌てることなく修正。3点目を奪って試合を決めた。

「明大の3原則である運動量、球際、切り替えを常に指示している。試合前に選手に口酸っぱく話した」(栗田大輔監督)

後半に関しては、「相手は2点のビハインド、前に圧力をかけてくるのはわかっていた。1失点したが、その後、リズムを取り戻して3点目が取れたのはよかった」(栗田助監督)

この戦いを続けることができれば、逆転優勝の可能性は十分にある。

残留争いに巻き込まれて苦しんでいる中大。後悔開幕戦も順大に敗戦を喫したが、ここから修正を図り、前節の桐蔭大は2-1でリーグ戦2勝目を挙げた。

この日の中大は、前線からハイプレス徹底。

「ディフェンス面を徹底し、プレッシャーをかけ続けるというのを全員が遂行してくれた。前半は相手にプレーさせないということが続けられた」(白須真介監督)

守備の安定が攻撃にもいいリズムをもたらした2ゴールを決めたが、後半に入って1失点し、少しバタバタしてしまったのは課題。

「後半は相手にボールを持たれてしまったり、プレッシャーをかけられない時間があつた」(白須監督)

警告3回:小谷光毅(明大)、岡崎亮平、橋本龍馬(以上中大)
前期の対戦:明大1-1(シュート数12-5)中大

明大			中大		
6. 高橋	8. 石原	6. 鴨池			
5. 松藤	16. 水町	5. 岡崎			
1. 三浦	10. 和泉	11. 藤本			
7. 差波	17. 飯干				
3. 山越	18. 森重				
13. 小出	9. 矢島	2. 縣			
		10. 砂川			
		7. 渡辺大			
		9. 内田			
		8. 三島			
		21. 置田			
		23. 翁長			

順天堂大学 vs 流通経済大学

9月21日(日)
13:50K.O.
味フィ西

ケガ人が続出し、さらに教育実習で選手不在とメンバー構成で苦心している順大だが、そういった中でも前節の慶大戦は1-0の勝利を収めた。夏の練習試合などではディフェンスラインが安定しなかったが、

「逆にそれがよくなったのかもしれない。気持ちが引き締まった」(吉村雅文監督)

危ない場面もあったが最後は体を張ってプレーし、ゴール前を死守した。ただ、ボールの奪いどころ、奪ってからの攻撃という面は、もう工夫ほしいところ。

「まずは守備の徹底からなので、その部分では合格点。要求したいことはまだまだ多いが、今のメンバー、状況では仕方ないところもある。流経大は慶大に比べればボールの取りどころがあるので、うまくその部分を出していきたい」(吉村監督)

上位争いに食い込むのか、それとも残留争いに巻き込まれるのか。流経大にとって前節の筑波大戦は大きな意味を持つ試合だったが、しっかりと1-0で勝利を収め、勝点3を積み重ねた。

「まずは1-0で勝つたのでよかった。守備の乱れが出なければいいと思っていたので、予定どおりにいった」(中野雄二監督)

アミノバイタルカップ、総理大臣杯を経て、試合を重ねるごとにディフェンスが安定。この日は前半こそ攻め込まれる場面もあったが、終わってみれば筑波大の攻撃をシュート3本に抑える、素晴らしい戦いぶりだった。今節は首位に立った順大とのゲームだが、

「総理大臣杯前に順大と練習試合をしたときは4-0で圧倒し、総理大臣杯で優勝した。今の流経大は、そのときぐらいの力を持っている」(中野監督)

いかに力を発揮したい。

前期の対戦:順大3-1(シュート数16-5)流経大

順大		流経大	
2. 友澤	22. 原田	7. 森保	2. 湯澤
13. 宮本	18. 今津		
24. 室伏	27. 塚川		
21. 大畑	6. 長谷川涼	9. 佐野	21. 吉田
10. 長谷川竜	19. ジャーメイン	25. 古波津	
4. 谷奥	3. 田上		
27. 毛利	8. 新里	9. 中村	4. 鈴木

※布陣は前節を参考にした予想メンバー

JR東日本カップ 2014 第88回 関東大学サッカーリーグ戦

OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM VOL.26-NO.14 Division1



編集:加茂郁実 発行:(一財)関東大学サッカー連盟 協力:関東大学サッカーサポーターズクラブ

明大が専大を圧倒!!

9月6日に開幕した「JR東日本カップ2014 第88回関東大学サッカーリーグ戦」後期リーグ。初戦は順当に上位チームが勝利を収めたが、前節は前期の下位チームが奮闘した。
まず、首位の専大と逆転優勝を狙う5位・明大のゲームは、開始6分に明大が先制点を決めると、33分にも追加点。前半は圧倒的な明大ペースで折り返した。後半に入り、システムや選手を変更した専大が盛り返し、5分に1点差に詰め寄ったが、その後、チャンスを決められなかったのが痛かった。明大がその間にしっかりと修正して、32分に試合を決める3点目。専大は首位の座から引きずりおろし、4位に浮上した。専大は前半の戦い方に課題が残った。こちらも好カードとなった2位・順大と3位・慶大の上位直接対決。両チームともに持ち味を發揮して好ゲームを展開したが、試合をモノにしたのは順大だった。CKから長谷川涼太(4年)が値千金のゴールを決めて、大きな勝点3をゲット。今シーズン二度目の首位に立った。慶大は善戦も及ばなかった。
4位・早大は7位・駒大との一戦。上位にくらいついていきたい早大は、常に先手を奪う戦いを見せたが、粘りを見る駒大を振りきることができず2-2の引き分けに終わった。駒大は勝ちきれなかったものの、最後まで集中した戦いを見た。
6位の国士大は、残留争いに巻き込まれている10位・東国大とのゲーム。前半はスコアレスドローで折り返したが、後半26分に国士大が1点をリード。しかし、負けられない東国大が1分後に同点に追いついた。その後、東国大は

得点ランキング		アシストランキング	
前澤 甲気(専大)	10点	北出 雄星(専大)	5アシスト
山根 視来(桐蔭大)	7点	堀田 稜(早大)	4アシスト
藤本 佳希(明大)	7点	仲川 輝人(専大)	4アシスト
平松 宗(国士大)	6点	以下3アシスト10名	
佐野 翼(順大)	6点		
近藤 貴司(早大)	6点		

選手が一人退場となり数的不利となったが、何とか守り切って、結局1-1の引き分けに終わった。
総理大臣杯を制した流経大は最下位・筑波大とのゲーム。筑波大は粘りを見せたかったがシュート3本と攻撃力を發揮できず、逆に流経大が後半4分に先制。そのまま1-0で接戦を制した。
互いに残留争いに巻き込まれている9位・桐蔭大と11位・中大の対戦。前半17分に中大が先制点を奪うと、後半5分にも追加点。31分に桐蔭大も1点を返したが反撃もここまでで、中大がうれしい後期初勝利を飾った。
大混戦となっている上位争い。残留争いも混沌としてきただけに目が離せない!!

JR東日本カップ 2014 [第88回] 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

順位	順大	専大	早大	明大	慶大	国士大	駒大	流経大	東国大	桐蔭大	中大	筑波大	勝数	点数	負数	総得点	総失点	得失点差	勝点
1	順大	201 11月16日	0Δ0 10月25日	0Δ0 11月9日	0●1 10月9日	201 11月2日	100 9月28日	301 9月21日	2Δ2 10月5日	401 10月18日	201 400	200 10月12日	9	3	1	23	8	15	30
2	専大	1●2 味フィ西	300 11月9日	1Δ1 11月2日	2Δ2 10月26日	200 10月19日	600 10月4日	201 9月27日	200 9月21日	502 10月12日	402 100	200 100	9	2	2	32	13	19	29
3	早大	0Δ0 早大G	0●3 BMW	1●2 11月2日	200 9月20日	301 11月16日	301 9月20日	1Δ1 10月12日	200 10月12日	0Δ0 10月5日	201 9月28日	100 9月28日	7	4	2	18	11	7	25
4	明大	0Δ0 夢の島	1Δ1 301	201 中大G	0●2 9月28日	2●3 11月15日	200 10月12日	0●1 100	100 10月18日	401 10月26日	1Δ1 9月21日	301 10月4日	7	3	3	20	12	8	24
5	慶大	100 0●1	2Δ2 フクアリ	0●2 味フィ西	200 古河	0Δ0 10月5日	200 11月8日	0Δ0 10月26日	0●2 10月12日	300 200	201 10月19日	100 9月20日	7	3	3	15	8	7	24
6	国士大	1●2 フクアリ	0●2 味フィ西	1●3 味スタ西	302 中大G	0Δ0 中大G	2Δ2 201	201 10月12日	1Δ1 10月12日	100 11月9日	201 9月27日	300 10月18日	6	4	3	19	16	3	22
7	駒大	0●1 千葉東総	0●6 味フィ西	1●3 2Δ2	0●2 味スタ西	2Δ2 江戸陸	0●2 102	2Δ2 11月15日	300 9月20日	100 10月5日	302 11月2日	403 10月26日	5	2	6	19	26	-7	17
8	流経大	1●3 味フィ西	1●2 古河	1Δ1 味フィ西	100 0●1	0Δ0 味フィ西	102 ひたちなか	0●3 ゼットエーオアフル	403 11月1日	1●2 9月28日	100 11月9日	0●1 100	4	2	7	12	18	-6	14
9	東国大	2Δ2 味フィ西	0●2 東国大G	0●2 0●1	0●1 川口	200 味スタ西	1Δ1 1Δ1	0●1 千葉東総	3●4 古河	0●2 11月15日	100 10月25日	1Δ1 11月8日	2	4	7	11	18	-7	10
10	桐蔭大	1●4 千葉東総	2●5 BMW	0Δ0 BMW	1●4 保土ヶ谷	0●3 0●2	0●1 BMW	2●3 味フィ西	201 古河	200 古河	1●3 1●2	301 11月8日	3	1	9	15	29	-14	10
11	中大	1●2 0●4	2●4 BMW	1●2 中大G	1Δ1 味フィ西	1●2 味スタ西	1●2 東国大G	1●2 中大G	0●1 たつのこ	0●1 東国大G	301 201	0Δ0 11月15日	2	2	9	13	23	-10	8
12	筑波大	0●2 ひたちなか	0●2 0●1	0●1 千葉東総	1●3 古河	0●1 味スタ西	0●3 江戸陸	3●4 古河	100 0●1	1Δ1 たつのこ	1●3 古河	0Δ0 古河	1	2	10	7	22	-15	5

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

自分を超えて、進もう。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会



慶應義塾大学 vs 筑波大学

9月20日(土)
11:30K.O.
味スタ西

前期リーグから素晴らしい戦いを見せている慶大。前節は残念ながら順大に0-1の敗戦を喫してしまったが、それでもその輝きは決して失われていない。

「互いに集中した守備でなかなかチャンスは作れなかったが、非常にいいゲームだったと思う。負けはしたが、こういったゲームを続けることが大事。あともう1、2本つなげば相手を崩せるというところはあるけれど、今年はこのサッカーを続けようというところがあるので、よく戦ったと思うし結果は力負け。それより連敗しないことが大事」(須田芳正監督)

悔しい敗戦に間違いはないが、自分たちの力は出しきっていた。攻撃面でもう少し裏を狙う動きが出てくれば、さらに得点チャンスは増えたはず。そういったシーンを今節では多く作りだしていきたい。

最下位と苦しい戦いが続いている筑波大。前節は前期リーグ最終戦で勝利を収めた流経大との対戦だったが、前半こそ互角に戦ったものの、後半は一気に押される展開に。そこでディフェンスラインが耐えきれず、0-1の敗戦を喫してしまった。これで2試合連続の無得点。得点カアップを目標に夏場のトレーニングに励んできたが、その結果が表れていない。

「流経大も必死になって戦ってくる中で、自分たちのよさが出せないまま終わってしまった」(中山雅雄監督)

後期初戦の専大戦では0-1の敗戦を喫したものの、内容的には手応えのあるものだった。それだけに流経大戦で何もできずシュート3本に終わったのは、チームに相当な打撃となったのは確か。今後は残留争いというプレッシャーとの戦いにもなるが、強い気持ちを持ってしっかりと戦いたい。

警告3回:溝淵雄志(慶大)、西村洋平、車屋紳太郎(以上筑波大)
前期の対戦:慶大1-0(シュート数8-8)筑波大

慶大		筑波大	
14. 井上	7. 川田	6. 片岡	4. 浅岡
6. 望月	15. 平戸		8. 早川
18. 浅間		13. 齋藤	
1. 峯		17. 中野誠	1. 岩脇
		10. 中野嘉	
8. 山浦		7. 車屋	
2. 久保	10. 端山		5. 西村
4. 保田	13. 加瀬澤	20. 野口	3. 三丸

駒澤大学 vs 東京国際大学

9月20日(土)
13:50K.O.
東総

駒大の前節は、安定した力を発揮する早大とのゲーム。先制点を奪われる苦しい展開だったが、「後半は選手たちが一生懸命プレーし、全力でやっていた。後半に限っては満足している」(秋田浩一監督)

二度リードを奪われても決してあきらめることなく、2-2の引き分けで試合を終えた。

「あきらめず、最後まで得点を取りにいっていた。ここ最近、うちのチームではなかなかなかったことだったので、そういう意欲は評価したい」(秋田監督)

一方で、前半8分と比較的早い時間帯に失点してしまったのは反省点。

「前半はいいところがなかった」(秋田監督)

リードされてから必死になるのではなく、立ち上がりから90分通してこういった駒大らしい戦いができれば、さらに勝点をしっかりと積み重ねることは可能だ。

対する東国大は国士大に1-1のドロー。PKから先制点を献上してしまったが、即座に追いつき、退場者を出したものの、粘りを見せて引き分けで試合を終えた。「キャプテンが不在で4年生も少なく、1年生が5人出ているという中ではいい入り方ができたと思う。学年は関係なく、チームの中でしっかりできるプレーヤーを選

ぶことを重視しているため、メンバーがしょっちゅう替わる。ウチはそこまで技術に差があるわけではないため、誰を起用してもそこそこやれる」(前田秀樹監督)

PKの場面では選手が一人退場となったが、それでも同点に追いつき、勝点1をゲットしたのは次につなげるはずだ。昨年、同じ2部で戦った駒大とのゲームで、こういった戦いができるのか、今後を占う大事な試合だ。

出場停止:国井拓也(東国大)警告3回:伊藤慎人、平野篤志、板倉直紀(以上駒大)、福島遼(東国大)

前期の対戦:駒大1-0(シュート数15-9)東国大

駒大		東国大	
15. 須貝	11. 小牧	28. 田山	12. 蒔苗
4. 平尾		4. 加藤	15. 舩田
	9. 小牟田		23. 成田
22. 森	5. 伊藤	10. 板倉	21. 今野
		8. 斎藤	20. 安東
3. 川岸		9. 福島	5. 鈴木
13. 大木	7. 平野	7. 小玉	2. 大森

早稲田大学 vs 国士舘大学

9月20日(土)
13:50K.O.
味スタ西

激しい優勝争いを繰り広げている早大。離されずに直接対決まで持っていきたいところだが、前節の駒大とのゲームは二度リードを奪いながら、いずれも追いつかれて2-2の引き分けに終わってしまった。

「後半立ち上がりから駒大がより前線にパワーで持ってきたときに、ボール保持者に対しての寄せや対応が甘くなり、クロスから何度もチャンスを作られていた。出どころに対して、もっとプレッシャーをかけていけるようにしたかった」(古賀聡監督)

守備のところではやや不安定さを露呈してしまったが、逆に攻撃面では、

「前半、相手がパワーで長いボールを入れてくる中でも耐えながら、速い攻撃でチャンスを作り出して、積極的に仕掛けて2ゴール取れた」(古賀監督)

前期は得点力不足に悩むことも多かっただけに、得点カアップはプラス材料。これを勝点3に結びつけたい。

国士大の前節だが、東国大相手に1-1のドローに終わった。後半26分にPKから先制点を奪ったが、1分後に同点に追いつかれてしまった。展開的には勝ちきりたかったが、それでも後半に佐々木陸(4年)が入ると両サイドから攻撃ができるようになり、バリエーション

も増えた。これを立ち上がりからできるようにすれば、勝利に近づくはずだ。

「きれいにつないでいくより、ボールを奪ってから全員で前に前にと運んでいくのが自分たちのサッカー。ボールも人も動く、推進力のようなものが試合の中で出ている」(細田三二監督)

今後はその推進力をゴールに結びつけられるかがポイントだ。

警告3回:海野智之(国士大)
前期の対戦:早大3-1(シュート数11-2)国士大

早大		国士大	
12. 八角	8. 堀田	17. 高見	25. 中村
4. 金沢	14. 山内	20. 山口	3. 福田
	10. 近藤		6. 海野
1. 松澤			21. 久保田
	2. 奥山		8. 松本
3. 田中	9. 宮本	11. 平松	15. 附木
5. 新井	7. 近藤貴	10. 進藤	2. 藤寄

専修大学vs桐蔭横浜大学

9月21日(日)
13:50K.O.
BMWス

前期リーグを首位で折り返した専大だったが、前節の明大戦は1-3の敗戦。懸念のディフェンスラインにまたもケガ人が出てしまったことや、システムの変更が影響してしまった。

「戦術のやり方を失敗してしまった。FWの選手を中央に固めすぎた」(源平貴久監督)

仲川輝人(4年)、前澤甲気(3年)のポジションを通常のサイドからや中に持ってきたが、明大のコンパクトにしたディフェンスにガッチリとはまってしまった。逆にスペースを失い、本来の戦いができずに前半だけで2失点。後半、通常の戦いに戻して盛り返し、1点を返したが反撃もそこまで。2点は奪えず、逆に3失点目を喫して試合は決した。ただ、

「戦術的な問題だったので、1週間での修正は可能」(源平監督)

あくまでも攻撃的にサッカーを貫こうという考えだけに、前節のようなチャンスを決めきれないというシーンは減らしていきたい。

残留争いに巻き込まれている桐蔭大。前節、11位の中大との直接対決に1-2で敗れてしまった。

「相手のすごい集中力と前線からのプレッシャーの前に

何もできなかった」(八城修監督)

気迫に負けて後半5分までに2点のリードを奪われた。苦しい展開となったが、

「後半に相手が疲れてきて、プレッシャーが少なくなった時間帯では自分たちのサッカーが出来た。また交代で入った選手がみんな活躍してくれた」(八城監督)

というように評価できる点はある。それをしっかりと勝点に結びつけたいところだ。

警告3回:萩間大樹(専大)、金子雄祐(桐蔭大)
前期の対戦:専大5-2(シュート数18-5)桐蔭大

専大		桐蔭大	
5. 小口	11. 前澤	8. 山崎	3. 石堂
4. 中嶋			4. 古澤
	16. 沓掛		6. 福島
28. 蔦	7. 北出	9. 山川	10. 坪井
	8. 星野		13. 岡本
3. 萩間			5. 大野
			24. 時田
2. 北爪	10. 仲川	7. 山根	2. 田内